

# 音楽とは 横への感性なり!

合唱団ホームページアドレス  
<https://www.wiengifu.org>

## 2月号

2023年2月1日  
編集・発行  
ウィーン岐阜合唱団

まち ごと おとたの  
**岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保**

## ウィーン岐阜合唱団創立25周年を祝って

音楽総監督 平光 保

1997年1月に季節合唱団として“美しく青きドナウ”をオーケストラで歌おうと呼びかけたのが、私の合唱団の活動のはじまりです。翌年もこの活動が続き、1998年2月に正式に「ウィーン岐阜合唱団」が発足、以来、四半世紀を迎え、当初から目標にしていた25年の思いをここに達成することができました。というのは、以前に「岐阜第九」が25年間の幕を閉じるのをきっかけに、私達の“第九”が始まったからです。結局、半世紀に渡り、岐阜での“第九”を支えてきた事になり、とりあえず、安堵しております。今後は、私達のカラーを一層出しながら活動して参りたいと思います。カラオケのファンは大勢いると言われますが、クラシックのファンは1パーセントに過ぎないと言われております。カラオケは飲みながら楽しめますので、クラシックもそんな雰囲気醸しだせばファンがもっと増えると思われまます。クラシック発祥の地ヨーロッパの宮廷音楽では、こんな世界を楽しんでいたに違いありません。まさに本日のパーティーがこれを物語っています。

2002年からは、隔年毎に計9回のヨーロッパ“第九”音楽友好の旅を企画し、偉大な作曲家の痕跡、記念館を訪れ、本場で見聞きすることは大変刺激になりました。なかでも圧巻だったのは、ベートーヴェンの記念館にて、ベートーヴェンが弾いていたピアノを私が弾くチャンスを得たことです。私達が訪れた時、館内のスピーカーから“第九”が流れ、団員が口ずさんだのがきっかけで、館長が「東洋人がドイツ語で歌っている」と興味を持たれ、ピアノの許可が出たのです。恐る恐るピアノソナタ op13「悲愴」の第2楽章で鍵盤に手を触れ、ベートーヴェンが弾いたピアノに、時を経て自分も触れていることにとっても興奮しました。それ以来、ベートーヴェンがより身近に感じられるようになりました。又、モーツァルトが「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を献呈し、初演したと思われる教会で、私達もその曲を歌ったこと、オーストリア、チェコの国境付近に位置するアッター湖畔のほとりのマーラー作曲小屋の見学、ベルリンフィルの屋外コンサート等、幾多の思い出があります。

ヨーロッパ演奏旅行の活動以外にも、紅葉ツアー、合宿での晚餐会等…合唱を通して“より人生を豊かに”をモットーに活動しています。お酒もこの活動を促進してくれます。今後も『音楽 with 酒』で誰にでも楽しめる普段着・肩の凝らない感動の音楽を目指し、音楽人口拡大を図り、より一層楽しい音楽活動に邁進してまいりたいと思います。

## 2023 卯年を翔る！飛躍と向上

岐阜・ソプラノ 新田ひとみ

遠くの方々の新雪が、朝日に眩しく輝きます。冴える空気は静寂に包まれ、寒さの中にも穏やかな新春の幕開けです。晴れやかな希望に満ちた一年になることを祈るばかりです。

ウィーン岐阜合唱団は、1月5日の岐阜会場を皮切りに、大垣会場・各務原会場とも、練習を開始しました。

今年は合唱団発足から25年の節目を迎えます。創立25周年を記念して、2月5日の夢☆音楽パーティーの開催にあたり、過ぎし日に万感の思いが込み上げます。

かつての周年記念祝いがそうであったように、多方面からのご参集は平光先生の人望の厚さを物語るかのような、華々しい祝賀となることでしょう。

“岐阜の街ウィーンの如く音楽し”を掲げ、音楽総監督として導かれた平光先生の夢の種は大地に根付き、四半世紀の歳月をかけて見事に花開いたのです。

ここに寄せる思いは、私たちにとっても誇りと喜びであり、一人一人が歴史をつくる主役なのだと、感慨を深くします。ともに歩まれた多くの方々のご尽力に深く感謝し、積み上げられた歴史を繋いでいく大切さを実感します。

この道のりで、新型コロナウイルス感染症の影響は、合唱団にとって想像以上に大きいものでした。失意の中で一縷の光となったのは、夏の高校野球優勝校監督の言葉「青春は密なので」ではないでしょうか。なぜなら、合唱もまさに三密の中から生まれる音楽だからです。

よくないイメージが染みついた密という言葉が、本来人が生きるために必要なのだと共感を呼び、肯定的な力を取り戻したのを感じました。

音楽に不可欠な密な関係性を妨げられ、団員の減少に直面しながらも、希望の光となるアンサンブルコンサートを続けました。厳しい状況を乗り越えて、昨年9月23日には遂にウィーン岐阜管弦楽団と、3年ぶりの共演が叶ったのです。

コロナ禍で翻弄された日々の沈みが反動となり、天を衝くような感動を覚えました。観客からの惜しみない拍手は、平光音楽を待ち望んだ人たちのウィーン愛が溢れているようでした。更には、私たちは県下唯一のプロオーケストラと共演できることの幸せと、自負の念をも抱きました。

確かに残る余韻を糧に、3月26日第24回定期演奏会へ、そしていよいよ4月からは12月24日の第22回第九演奏会へと臨んでいきます。待望の夢の実現に思いを馳せ、胸躍るワクワク感を多くの皆様と味わえたらと切に願います。

ベートーヴェンが込めた第九への想いは、「友人や愛する人のいる人生のすばらしさ」です。感染症や紛争の絶えない今こそ第九に集い、自由と平和への願いを歌いあげたいと思います。

1824年の初演から200年の時を越えて迎えた卯年は、「飛躍」と「向上」の年と言われます。ウィーン岐阜合唱団が2023年の天空へ翔け跳ね、大きく飛躍しさらに向上する年になってほしいと願わずにはられません。

さあ、今こそ閉じた楽譜を開くとき！満を持して4年ぶりに開催される第九演奏会を、皆様の力強いハーモニーで実現できると信じます。

プロオーケストラのすばらしい演奏とともに、声高らかに歓喜の歌を響かせましょう。

是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。どうぞよろしくお願いたします。

## わ～い、ぞうれっしゃがやってくる

大垣・アルト 古田 千恵子

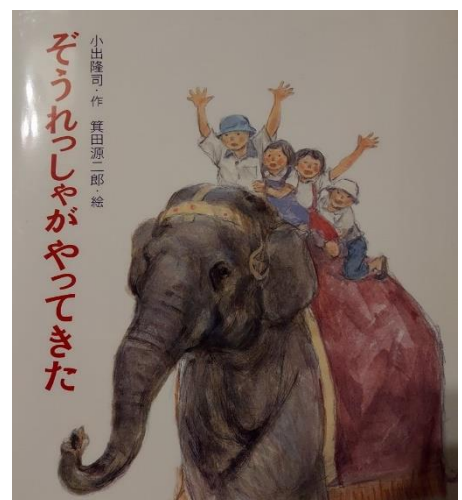
私のウィーン岐阜合唱団での初登壇は、2018年7月の「ぞう列車がやってくる」でした。以来、わたしは、この合唱曲がとってもとっても大好きになりました。初めて楽譜を手にして歌詞を読んだ時、戦争の悲しさと動物園の方々の勇気ある行動、エレファント号発車を現実のものとした子供たちの熱意、当時の国鉄社員の方々の行動、気持ちに感動し、涙が止まりませんでした。この曲には過酷な時代を共に生き抜いた動物と人間の大きな大きな絆と愛が溢れています。戦争の悲惨さ醜さ悲しみ、だけどいつか平和がやってくる迄耐えようという希望をもちながらの苦しい場面に心がざわめき、もがきました。当時さっそく原作の絵本を購入し、なんども読みました。絵本好きなこともあり、今でも時々広げては読んで心の浄化をしています。読むたびに、ヨハン・シュトラウスの次の定期演奏会の曲はなんだろうなあ？とワクワクしてましたら、なんと次回は、待望の「ぞう列車がやってきた」と聞き、やったー！です。今から4月からの練習が楽しみでなりません。前回はアルトパートでしたが、次はソプラノパートでチャレンジします。戦時下当時の象のアドン、マカニー、エルド、あとえーと、そうだキーコ、それから東山動物園の北王園長、飼育係さんたち、こそっと象たちのために軍馬用の餌をわけてくれた兵隊さん等に敬意を、また戦争の犠牲になった動物たちの気持ちを思い、そして戦後昭和24年の象列車エレファント号に乗った子供たちの笑顔をしっかりと胸においてこの合唱組曲に参加したいです。今、世界のいろんな国々で自然環境破壊、ウクライナ他での人間同士の争い、コロナ等の病がずっと蔓延しています。私の好きなミュージカルの挿入歌の歌詞に「戦いは新たな戦いを生むだけ…」とあります。一日も早く平穏がきますように。

象列車の素敵な音楽のハーモニーを大勢で奏でられたら、  
聴きにきていただけるお客様に気持ちを伝えられたら、  
命の尊さ、思いやる心を伝えることができたなら、  
少しでも社会貢献できたら、  
こんな嬉しいことはないとおもいます。

♪ 象たちの背中に友達の笑顔がある  
長い鼻は僕らの滑り台さあ～  
一緒に行進しよう ぼくたちと～

人間のいのちをいつくしむ心を～  
動物のいのちをいつくしむ心を～

いつまでもわすれないでほしい～ ♪



2月～4月の練習予定

♪～準備が先、声は後～♪

平日 (8:30～20:30)		日曜 (14:00～16:00)
岐阜	大垣	各務原
長森コミュニティーセンター	大垣市南地区センター	ウィーン岐阜ホール
2月5日(日) 合唱団創立25周年記念・夢☆音楽パーティー (岐阜グランドホテル)		
2月9日(木)	2月10日(金)	2月12日(日)
2月16日(木)	2月17日(金)	2月19日(日)
2月23日(木)	2月24日(金)	2月26日(日)
3月2日(木)	3月3日(金)	3月5日(日)
3月9日(木)	3月10日(金)	3月12日(日)合同強化練習
3月12日(日) 13:30～16:30 合同強化練習(長森CCにて)		
3月16日(木)	3月17日(金)	3月19日(日)合同強化練習
3月19日(日) 13:30～16:30 合同強化練習(長森CCにて)		
3月23日(木) 18:30～20:30 オケ合わせ(大垣北地区センター) 林町6-105 058-481-7171		
3月25日(土) 13:30～16:30 前日練習(長森CCにて)		
3月26日(日) ウィーン岐阜合唱団 第24回定期演奏会 瑞穂市総合センター サンシャインホール(瑞穂市別府1283) 058-327-7586		
3月30日(木) 休み	3月31日(金) 休み	4月2日(日) 休み
4月6日(木)	4月7日(金)	4月9日(日)
4月13日(木)	4月14日(金)	4月16日(日)
4月20日(木) 休み	4月21日(金)	4月23日(日)
4月27日(木)	4月28日(金)	4月30日(日)

岐阜新聞「素描」より

『力を抜く』 平光 保

指揮者は野球好きなの  
 かもしれない。ウィー  
 ンフィル管弦楽団などを  
 指揮した岩城宏之さん  
 (故人)の野球好きは有  
 名です。また「コバケン」  
 として知られる世界的指  
 揮者、小林研一郎さんも  
 仕事より野球優先。かつ  
 て木曾川の河川敷で小林  
 チームと平光チームの親  
 善試合をしたことがあり  
 ますが、結果は2-1で  
 平光チームの勝ちです。  
 た。今でもお互いのユニ  
 ホーム姿の写真が家宝に  
 なっています。  
 私は学生時代、音楽学  
 部では珍しく野球部に在  
 籍していました。投手が  
 投げたボールを打者が瞬  
 時にバットでとらえる感  
 覚は、指揮者が一瞬をと  
 らえ指揮棒を振り下ろす  
 感覚に似ていると思いま  
 す。良い選手の動きは美  
 しく、無駄な力が抜けて  
 いると感じました。  
 ピアノも、指揮のテク

ニックを応用しました。  
 指は慣性に任せ、肘は固  
 まらないように、上半身  
 の重みを利用したエネル  
 ギーを伝えるような力の  
 抜き方を覚えると、指が  
 早く回り出し、音色も美  
 しくなり、暗譜も苦にな  
 らなくなりました。なら  
 ばと、ベートーベンの3  
 大ソナタのリサイタル  
 や、モーツァルトの協奏  
 曲「ジュノンム」の弾き  
 振りにも挑戦しました。  
 全ての運動や芸術、人  
 間的な美は、「脱力」が  
 鍵だと思えます。また、  
 新しい発見や発明、奇跡  
 を生み出す原動力も「脱  
 力」にあるような気がし  
 ます。急に何かに目覚め  
 たという経験の持ち主  
 は、天から脱力の啓示が  
 与えられたのではないで  
 しょうか。余分な力や頭  
 の力を抜いて宇宙や自然  
 の法則に従い、楽な気持  
 ちで身を委ねて自然の恩  
 恵に感謝し、柔軟な心を  
 持ち、より豊かな人生を  
 楽しみたいものです。

広報より 皆様からのご意見・ご投稿をお待ちしております。ご投稿・ご質問等は下記までお問い合わせ下さい。

坂井 俊郎 mail : [sakai\\_gifu@yahoo.co.jp](mailto:sakai_gifu@yahoo.co.jp) 090-7041-9133  
 高橋 なお子 mail : [wien.chorus2021@gmail.com](mailto:wien.chorus2021@gmail.com) 090-9933-0374